

活動実績報告書

平成29年12月7日

登録番号 20170912

氏名 倉本 雅則

1. 活動状況

平成20年12月 ～ 平成27年12月

【活動の概要】

平成20年12月以降、国有林職員、県及び市長村林務担当職員、請負事業者・森林組合等のオペレーター関係機関担当者を集めて森林作業道現地検討会を毎年講師として実施して来た。

内容は森林整備を行うための森林作業道の線形の描き方、法尻からの転圧、波型線形による水切り等の基本的な施工及び高性能林業機械との組み合わせによる効率的な作業システムと生産性の向上の普及である。

【当該業務を挙げた理由】

森林作業道は従前から国有林民有林を問わず広く普及している木材搬出方法であるが、森林作業道等の路網と高性能林業機械の組み合わせによる生産性の高い作業システムを構築し、林業界全体に普及させることが重要であると考えた。

特に、森林作業道は簡易で崩れにくく長く使える道を作設することを目指す必要がある。

【当該活動における、立場と役割】

森林作業道現地検討会では、持続的な林業を実現するための簡易で崩れにくい森林作業道の作設及び収益性の高い林業を目指すための生産性の高い作業システムを普及させる役割があり、この活動をとおして森林作業道作設オペレーターや森林施業プランナーに情報発信を行い技術向上をはかる様に導く立場であると考えた。

【活動上発生した問題点と課題及びそれへの具体的対応策】

現在まで8回程森林作業道現地検討会を行ってきたが、森林作業道と高性能林業機械の組み合わせによる生産性向上は図られ、技術も向上しているものと考えた。

しかしながら、森林作業道と高性能林業機械の組み合わせに木材搬出を実行して森林作業道が崩壊し林地崩壊を起こしている箇所があるのも事実である。

このため、今後は関係者との連携を深め、何故森林作業道が崩れたのかを原因究明し、オペレーターは自分が作設した、森林作業道が1年後、3年後、5年後、10年後どの様になっているか見守ることも必要であり、技術のレベルアップ及び普及に資する内容とし、同時にプロフェッショナルとしての意識を持たせる内容の検討会を実施していかなければならない。

さらに、将来ビジョンを見据えた森林づくりのため、関係者(森林所有者、請負者等)の合意形成を図り、安心して任せられる森林作業道と高性能林業機械野組み合わせによる森林施業の普及活動に努めていかなければならない。

注1:1. 活動状況については、直近の過去5年間に、森林総合監理士としての活動に関連していると考えられる、又は森林総合監理士として取り組んだ具体的な活動内容を記載してください。

登録番号20170912 氏名 倉本雅則

2. 研修の受講状況

研修名 平成24年度準フォレスター研修 平成24年7月10月

(実施主体) 林野庁

研修名 _____ 平成 年 月
(実施主体)

研修名 _____ 平成 年 月
(実施主体)

3. その他の自己の能力・維持向上のための活動状況

- ・九州森林管理局の準フォレスターフォローアップセミナーに参加(平成26年11月)
(平成27年11月)

注2:2. 研修の受講状況、及び3. その他の自己の能力・維持向上のための活動状況については、直近の過去5年間に取り組んだ具体的な内容と時期を記載してください。

注3:活動実績報告書は、A4で全2枚としてください。

注4:この活動実績報告書は、このままPDF化して林野庁ホームページに掲載しますので、見やすさ読みやすさ、個人の特定等、公開に差し障りのある表現にもご配慮ください。